

『首里城御普請物語』の刊行について

1 刊行の経緯

令和元年10月31日の未明、首里城の正殿及び南殿・北殿が火災にあい、多くの市民・県民が深い悲しみに包まれましたが、その直後から県内外から数多くの支援の声が届けられました。国や県もいち早く首里城再建を公言しました。本市にも15億円余にも及ぶ「首里城復興支援金」が寄せられ、首里城再建の後押しになりました。

このような中、本市が所蔵する国宝「琉球国王尚家関係資料」の中には1846年に行われた首里城の大規模な修理記録が4冊あり、首里城火災にともない、これらの資料に再び注目が集まりました。国宝資料を管理する那覇市歴史博物館では、これを機に首里城の修理記録である「百浦添御普請日記」を現代語訳し、刊行することになりました。

2 本書の内容・構成（別添目次参照）

本書は、当時の文字（草書体）で書かれた「百浦添御普請日記」（尚家文書498）訳注を付け、わかりやすく解説しています。また、監修の先生や有識者の方々に解説、コラムを執筆していただき、本の内容の理解に役立つようにしています。さらに、首里城正殿の写真を編年で並べるとともに、首里城付近の地図や写真を盛り込んでいます。

定価：2,600円 販売場所：那覇市歴史博物館（パレット久茂地4階）

3 本書の特徴

- ①原写真と書き起こした文字を比較するのが容易。
- ②現代語訳を理解するための訳注を充実。
- ③「首里三平等」・「首里城周辺」・「首里城内」の空間を地図で説明。
- ④首里城正殿最古の写真を含む戦前の正殿写真を年代順に掲載。
- ⑤1846年当時の修理記録を工事年表として掲載。

以上